

令和2年5月臨時議会―議長退任あいさつ

新型コロナウイルスが世界を震撼させ、この伊那市においても危機対応の真ただ中ではありますが、2期4年間の議長職の幕を下ろすにあたり、この議場にて退任の挨拶ができることは大変光栄なことであります。

議員、議会は市民と一体感を持つことが、何より大切なことではありますが、市民からみて、議会が一体どころか、遠い存在になってしまっていないか、市民から信頼感が得られてはいないのではないか、そんな思いから脱却すべき行動をおこした4年間でした。

議会の存在感を示し、議会の必要性、重要性を市民に理解していただき、その上で市民の身近に存在する議会、市民から信頼され頼りにされる議会、これを目指して議会改革に取り組んできました。その結果が、議会改革度ランキングにおいて、全国1400余ある自治体議会のうち、701位だったのを、徐々に順位を上げ、昨年は全国で39位、特に長野県内では1位にまで、改革度のランクが上がりました。数字や順位にこだわることはないのですが、これは改革の一つの証であり、全議員が同じ志しを持ち、共同歩調をとって歩んできた成果であります。ありがとうございます。

特にこの2年間は、市議選が無投票だったこともあり、市民に身近で、信頼される議会づくりのために、具体的には2つに重点を置いてきました。

1つには、魅力ある議会づくりであります。

全議員で、定数や報酬、情報発信のあり方について議論したことは、大変有意義なものであったと認識しています。このことにより委員会の生中継の開始、高校生の議会傍聴、さらには議員報酬の増と結びつくことができました。「議会の歩み」の記念誌を発刊できたこともその一つであります。

もう1つは、チーム議会の構築であります。

議員個人個人がしっかりと議員活動に励むことは当然のことではありますが、議員の資質向上対策としての議員研修により、さらには市政の課題、市政のあるべき姿について全議員が議員間討論を重ね、そこから得られた議会の総意を政策提言へと結びつけていくことができました。その結果、議会のチェック機能は勿論のこと、議会を市民の期待に応えることのできる政策集団として機能させることができたと理解しています。

この二つは市民から大きな評価をいただきました。市民にとって身近な議会、信頼され頼りにされる議会へと、少なからず第一歩を踏み出すことができましたものと思っています。

また、議会運営にあたっては、単にこれまでのやり方を踏襲するのではなく、必要に応じ全議員による議員懇談会の実施、さらには会派代表者懇談会を導入し、月一回のペースで開催してきました。これは代表者を通じ情報を各議員に流すとともに、政策以外の議会の課題や進め方等を意見を出し合い、相談しながら

進めることに徹しました。

これ等一連の行動実践により、議会制民主主義の一翼を担える存在といえるようになったのではないかと思っています。

ここまでともに行動してきたすべての議員の皆様には感謝を申し上げ、また二元代表制の中でともに議論してきた市長をはじめ行政の関係者にお礼を申し上げます、さらには議長を支えてきてくれた事務局の皆様には感謝し、そして何よりも市民の皆様には感謝を申し上げ、最後に新型コロナウイルスによる感染が早期に終結することを願って、退任の挨拶いたします。

ありがとうございました。